

てとり

vol. **18**
2023.3



これまでのNPO × 特集 これからのNPO

2023年、特定非営利活動促進法（NPO法）が1998年に施行されて25年を迎えます。特定非営利活動法人（NPO法人）は誰もが知っている固有名詞として定着し、その後合同会社、非営利型株式会社、一般社団法人、労働者協同組合等、社会課題の解決やありたい未来をつくるために活用できる法人組織の制度も多様化しました。

もちろん法人格がその団体の信頼性や社会的有用性の唯一のものさしではありません。法人格を持たない多くのボランティア団体等を含む「NPO」によって、人々の暮らしや地域社会は支えられています。

現在、鳥取県内のNPO法人は300を数え、子ども・子育て支援、高齢者・障がい者支援、環境保全、芸術・スポーツ振興、まちづくり、社会教育、国際協力等、様々な分野や地域で、県民の社会参加の機会を広げ、

2003 2001 2000 1998 1995

- 改正NPO法施行／経済・雇用など5分野追加企業CSR元年
- 地方自治法改正により指定管理者制度創設
- 認定NPO法人制度施行
- 介護保険制度開始、社会福祉事業法が改正され、社会福祉法スタート
- 鳥取県西部地震
- 特定非営利活動促進法（NPO法）施行
- 阪神・淡路大震災／ボランティア元年

鳥取県内の活動団体に関係する年表

vol.
18
2023.3

てとり

CONTENTS

特集

04 これまでのNPO、 これからのNPO



子ども・子育て

子どもサポート
ふたば



NPO法人
こども未来
ネットワーク



まちづくり

NPO法人
ひだまり



NPO法人
いんしゅう鹿野
まちづくり協議会



障がい者福祉

NPO法人
十人十色



一般社団法人
アートスペース
からふる

県内のSDGsの取り組み

10 倉吉おや子劇場

10 境港玄孫プロジェクト

高校生ing

11 クラーク鳥取 キャンドルナイト



クラーク記念国際高等学校
鳥取キャンパス

子ども・子育て



まちづくり



障がい者福祉



社会的なサービスや仕組みづくりを担うプレーヤーとして活躍しています。

今回の特集は、「これまでのNPO、これからのNPO」です。

〈障がい者支援〉〈子ども子育て〉〈まちづくり〉という3つの分野から、実績を積み上げ、地域を長年支えてきたNPO法人と数年前から活動をスタートさせた新しい団体のリーダーに集まっていただき、3つの対談を行いました。

「重度の障がいがある子をどう支えていけばいいか」「子どもたちが帰ってきたくなる楽しい町にしたい」「(鳥取県西部地震で)避難所の子どもたちに人形劇を届けたい」という想いから始まった活動が、「雪かき等地域活動を共に担うことで、障がい者に対する人々の意識に変化が生まれた」「空き家を活用した拠点ができ、住みたいと思う人が増え、世代間交流もすすんだ」「地域の理解も広がり、赤ちゃんが産まれたことをみんなで祝いしようと『ベビーシアター』も始めた」と語る経験あるリーダー。当事者が置かれている状況や地域社会に真摯に向き合い、活動に変化を加えながら、人々や地域からの信頼を得てきた様子が見えがえします。

そして、「障がいのあるアーティストを育成していきたい」「高齢者の移動支援等、地域住民を支えていきたい」「親子がほっとできるコミュニティカフェを作りたい」と、次の世代に想いが引き継がれています。

「ほっとけない」「こうありたい」という想いを、より多様なニーズに、より地域が抱える課題に向かって進化させながら、新たな解決策や関係性を生み出し続ける「NPO」に注目してみてください。

2005
前後

●ソーシャルメディアの台頭
(facebook、Twitterなど)

2008

●公益法人制度改革関連三法施行／
一般社団・財団法人制度の創設

2010

●「新しい公共」宣言(鳩山内閣)
●地域おこし協力隊制度スタート
●鳥取県 あいサポート運動スタート

2010
初頭

●クラウドファンディングの拡大
●READYFOR・CAMPFIREなど

2011

●東日本大震災／
NPO・NGOの活躍、SNSの活用、寄付の拡大

2012

●改正NPO法施行／
20分野に、新寄付税制スタート、
NPO法人会計基準採用、
内閣府・国税庁による認証・認定廃止、
都道府県・政令市が新たな認証・認定の所轄庁に

2013

●鳥取県 NPO法人条例個別指定制度施行
●鳥取県 手話言語条例施行
●SDGsが国連総会で採択

2015

●全国寄付月間スタート
●鳥取県中部地震

2016

●改正NPO法施行／貸借対照表公告の規定新設
●休眠預金等活用法施行

2018

●西日本豪雨災害

2019

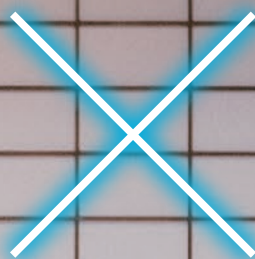
●新型コロナウイルス発生／
2020年にパンデミックを宣言

2022

●労働者協同組合法施行
●鳥取県ふるさと納税のよって支援する仕組み
「ギフ鳥」スタート
●不当寄付規制法施行

子どもサポート

ふたば



特定非営利活動法人

こども未来
ネットワーク

岩田裕美代表

渡部万里子理事長

NPO 法人 こども未来ネットワーク

子どもたちの体験活動や社会参画の機会の拡充を図るとともにそれを支える基盤作りをすすめていくことで子どもの豊かな成長に寄与することを目的とし、行政や企業では行えないNPOならではの先駆的かつ専門性を有する事業に継続的に取り組んでいます。

主に「アートスタート事業」、「メディアスタート事業」、「トイスタート事業」などを展開しています。

子どもサポートふたば

子育てに悩んでいる親御さんや悩みを抱えて困っている子どもたちに出会い、親と子の子育てサポートとして鳥取県南部町で子ども食堂や子育て相談を行っています。そして現在、地域の方や子どもたち、子育てママパパみんなが安心して集える、居場所づくりを目指し日々取り組んでいます。

活動を始めたきっかけは？

渡部 もともとは、子どもたちが生の舞台に触れる機会を作ったり、地域の中で社会に触れたりできることを目指す親子劇場が県内に4つあって、全体の協議会がありました。

そんな時に鳥取県西部地震が発生し、協議会の仲間たちと避難所の子どもたち人形劇などを見てもらう活動を始めました。それをきっかけに、県内全域の子どもみんなが体験できるようにしたくて、そのためには任意の団体である親子劇場の枠を超え、組織化を図る必要があると感じ、NPO法人化をしないといけないと思いました。

岩田 子どもが小学生の頃、うちに遊びに来る一人の女の子と出会ったのがきっかけでした。家庭環境もあってすごく心が荒んでいたのか、ある日ショックな言葉をその子が言ったんです。何がこの子をそこまで追い詰めているんだろうと思う、当時学童保育に勤めながら、チャイルドカウンセラーの資格を取りました。

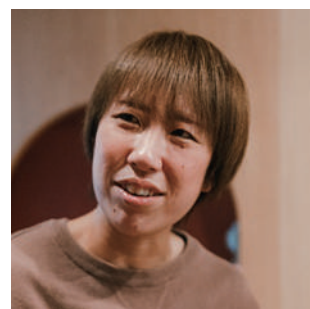
それから何ができるかを考え、2018年から毎月1回自宅に子どもたちが集

まるごとができる日を設けるようになりました。

どんな活動をして来られましたか？

渡部 基本的には、子どもたちが生のアトに触れる機会を作ることです。当初は年齢に拘っていませんでしたが、現在は乳幼児を対象にした活動が多くなりました。あとは、木のおもちゃやアナログゲームをする体験会も各地でやっていて、『こあん』もそういった場所として作りました。おもちゃ遊びもいろんな地域にインストラクターが少しずつ育ってくれ、今は人を育てるところにシフトしてきています。

岩田 町に相談して、去年4月に子ども食堂を立ち上



げました。核家族も増え、困りごとや悩みをどこに相談したらいいかわからない人も多い。ここに来たら話せる人がいるということで作らせてもらいました。行政の方ともつながり、地域の人からも野菜のお裾分けをいただきます。また、自分たちは、行政が手の届かない家庭の話を聞かせてもらう場所だと思っていて、私自身も障がいのある子がいるので、そういう相談会もしています。

活動を始められ、変わってきたことは？

渡部 NPO法人としての存在や活動を理解してもらうまで最初の10年くらいは大変でした。地域のの人たちと一緒に事業をしていく中で「これは大事だね」と理解してもらえて、地域の子育てサークルや市町村の子育て担当部署が協力してくださり、少しずつ広がってき

ました。
岩田 コロナもあって地域の人たちがつなげる機会が減りましたね。悩みを抱えておられる人のところに必要な支援が届けばいいなと思っていて、直接来られる場合は来てもらったらいいし、来づらいのであればSNSなどでもいい。小さな一歩を踏み出す環境は作っておきたいですね。

子どもや親を取り巻く環境は？

渡部 厳しい環境にありません。学校に普通に通えない子どもも多く、子どもたちが本当にしんどそうな顔をしているのを見ると自分が無力だなあと感じます。親御さんに対するケアも大事。

あとは、メディアの問題です。当時は携帯が広まる前でしたが、テレビやゲームに費やす時間が増えていて、それは「生の体験」と対局にあるんですね。「生の体験」をしてもらうことと、メディアの付き合い方の啓発を行うことをやってきました。

岩田 そうですね、私も「生きた体験をさせたい」と川に行ったり魚を捕まえたり、虫を取りに行ったり、外に連れて行ったり。自然と子どもたちがうちに集まってくるようになり、春休みに

なると10人くらい集まるようになりました。一緒に遊んだりする中で、その中で時々子どもたちが本音を言ってくれたりしました。

今後の展望は？

渡部 境港市は市内全域の保育所で、アトスタート事業をしてくれるようになり、子どもたちや先生方も楽しみにしてくれています。公共のサービスとして広げていき、「すべての子どもに」という意識をもう一度持たせてやっていきたいと思っています。

また、0〜2歳のベビーシアターを県内5箇所で開いたんですが、「産んでくれてありがとう」と言葉に出してお祝いの気持ちを伝えたいんです。昔なら赤ちゃんが産まれると家族だけでなく、近所の人からたくさんお祝いを言われしました。今はそういうことも減ったと思うので、「よく

やっているね」というメッセージをもっと届けてあげたいです。
岩田 子どもが小さかった頃に、渡部さんが経営されている『こあん』に来させてもらうことがあって、すごく温かいなあという印象をもった思い出があります。空き家を活用して、地域の人と、親御さんが集えるコミュニティカフェを作りたいなと考えています。

子どもサポートふたば

所在地／鳥取県西伯郡南部町福成980-18
連絡先／電話：070-8543-2840
メール：iw_ym-counseling0924@yahoo.co.jp
webサイト／https://futaba-counseling.amebaownd.com/

【webサイト】



【Instagram】



NPO法人こども未来ネットワーク

所在地／鳥取県倉吉市越中町1583-1
連絡先／電話：0858-22-1960 FAX：0858-27-0271
メール：info@kodomo-mn.com
webサイト／https://kodomo-mn.com/

【webサイト】



【facebook】



特定非営利活動法人

ひだまり



特定非営利活動法人

いんしゅう鹿野

まちづくり

協議会

岡田 隆 理事長

佐々木千代子 理事長

NPO 法人いんしゅう鹿野
まちづくり協議会

いんしゅう鹿野まちづくり協議会は2001年設立、2003年にNPO法人を取得。空き家活用、移住支援、景観演出、賑わい作り、耕作放棄地を果樹の里山に蘇らせる事業など地域資源を活かした活動を継続しています。

空き家は「ゆめ本陣」「夢こみち」の直営施設をはじめ、町内40ヶ所を継続活用。2009年頃から64世帯120人の移住を受け入れ、鹿野町の社会動態は2021年度+12人となりました。今後も鹿野の資源を活用した魅力づくりに取り組みたいと考えています。

NPO 法人ひだまり

私たち「ひだまり」は地域の高齢世帯や独居高齢者に対してドア to ドアで利用可能な交通手段の提供を行う事で通院、買い物等の日常生活を円滑に行えるよう活動しています。高齢化で家屋の維持・保守が困難な世帯に対する清掃、除草、家電等の修理などの支援を行い地域で暮らし続ける安心を提供する一方、身近な地域住民の潜在力を発掘すると共にその能力を発揮できる場所の提供を行い生きがいの創出や新たな人材の育成に取り組んでいます。

活動を始めた
きっかけを
教えてください。

佐々木 平成の市町村合併が決まる頃、「自分たちの町を子どもたちが帰ってきたくなる町にしよう」という思いで有志が集まりました。県の町並み環境整備コンテストをきっかけに「いんしゅう鹿野童里夢（ドリーム計画）」を立て、協議会を約20年前に立ち上げました。

そこから空き家を活用したもののづくりや、世代間の交流が生まれるようなことに取り組んできました。

岡田 地域の交通弱者をどうにかしようというところから、もともとPTAの仲間だったメンバーで8年前にNPO法人を設立しました。私たちの住んでいる大篠津地域は米子市の一番端で、高齢化でJRやバスを利用しにくい人が多くなっています、ここで生活する上では何か支えが必要だと感じていました。そこから福祉有償運送を始めようと思いました。



活動を始められて
どうでしたか？

佐々木 最初から空き家改修を目指していたというよりは、町を楽しみたいというのが発端でしたので、県の補助金を使って活動拠点としてゆめ本陣を作りました。

そうしたら「次は食べ物屋もいるね」という話になったけど「こんな人通りがないところではできない」とプロの人たちには断られ、結局、地元のお母さんたちでお食事処「夢こみち」を開きました。当時は観光地にはならないとはっきり

言われたこともありすが、一般的な観光地を目指すのではなく、ここで楽しく暮らしている様子を見に来てくれたらいいなと思っていました。

岡田 活動を広げていくのと、運営維持に必死でした。現在は車6台、運転手15人で年間4千件くらい運んでいてもタクシール料金の半分の運賃のため、この活動で黒字経営にはなりません。多様な事業を組み合わせることで何とか事業を継続できています。在宅の人に向けたサポートは当時周りになく、何をするところか活動を認知してもらうことも大変でした。病院や公民館などに案内し、口コミで段々と知ってもらって利用いただけるようになりましたね。

当初と今を比べ、
変わってきた
ことは？

岡田 困りごとが多様になってきたので、耕作放棄地を管理したり、家の片付けや解体をしたり、なんでもしています。今は、買い物代行や病院の付き添いもするんです。病院で医者の説明と一緒に聞いてあげたり、家族の代わりのようなことをしていますが、誰でも受け入れるのではなく、

家族とのつながりがある場合はお断りしています。その兼ね合いは難しいところですよ。

佐々木 今は40、50軒の空き家を預かっていて、20数軒は住まいに、10軒ほどがお店になって8割以上が稼働しています。

空き家も当時からかなり増えていて、あと5年経ったらもっと増えます。鳥の劇場ができてから鹿野に住みたいという人が増え、住みたいとこられる人の方が多くて、常に地域の方に空き家を貸してもらえませんかと投げかけをしています。今は地域の人も空き家の相談をしてくださるようになりました。

岡田 団体の活動を支えるメンバーも高齢化してきていて、運営費の維持と世代交代は常に課題ですね。昔に比べて定年も延びたことも痛くて、地域のことをしてくれる担い手が減っています。かといって若い世代に高い給料を出せる余裕も

なかなかないので、難しいところですよ。

佐々木 運営費と人の問題はありますよね。私たちも空き家を使ってもらうには片付けないといけないから、そこに労力がかかるんです。空き家の活動を続けてきたからこそ、県から「何が必要ですか？」と聞かれて補助制度ができたこともありましたが、それも大きな変化ですね。

今後の展望は？

佐々木 昨年、県外にまちづくりの研修に行ったんですけど、若い学生さんとも一緒にあったんです。世代も違えば考え方も違っておもしろいんですよ。自分たちも楽しみなが活動が続け、「自分たちの町を自分たちでなんとかしよう」という思いを次の世代につなげていきたいなと思います。

あと、移動手段がない高齢者も増えていて、その話はいつも出るんです。ひだまりさんの取り組みを参考にさせてもらいながら、本腰を入れる時にはぜひ相談に乗っていただきたいです。

岡田 団体をどう続けていくか、ですね。地域の公共施設を地域の人が指定

管理で受けると、自立しやすいのかなと思います。

私たちは、地域の人が安心して日常の暮らしを送ることができるよう、出来ることをやっているだけなんです。これから自分たちがやれることで地域を支えていきたいです。佐々木さんたちの空き家の取り組みはとても参考になりました。うちもまちづくりにどうつなげていくかを考えています。

■NPO法人ひだまり

所在地／鳥取県米子市大篠津町125番地2
連絡先／電話：0859-30-3421 FAX：0859-30-3422
メール：hidamari@skyblue.ocn.ne.jp
webサイト／<https://hidamari.hp.gogo.jp/pc/index.html>

【webサイト】



■NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会

所在地／鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1809-1
連絡先／電話&FAX：0857-84-1188
メール：ホームページのお問い合わせから
webサイト／<https://www.shikano.org/>

【webサイト】



【facebook】



一般社団法人

アールスペース

からふる

特定非営利活動法人

十人十色

妹尾恵依子 理事長

岸本美鈴 理事長

NPO 法人十人十色

理事長の岸本は、自宅と鳥取市内での学習塾を35年間営み、その後2004年(平成16年)に生家の敷地内に自立支援ホームをつくり、翌年2005年(平成17年)にNPO法人十人十色を設立しました。児童・しょうがい者・高齢者に対して社会福祉に関する事業(グループホーム、就労支援B型、生活介護、小規模多機能型居宅介護、ふれあい共生ホームなど)を次々と開設し、そして地域食堂「ご夢めし」を営んでいます。

しょうがい者福祉事業や高齢者福祉事業を営み、利用者地域との関わりや地域活性化のための活動を幅広く行っています。

一般社団法人
アールスペースからふる

アールスペースからふるは、個性的なアート作品の制作を行っている就労継続支援 B 型事業所です。アートを行う人、物、場所が整った環境を“アールスペース”と捉え、個性豊かな創作活動を色に例え、創作活動を行う場に集う仲間を“からふる”としてこの名をつけました。アートを制作することを仕事として、日々障がいのある方々が通ってきています。共に豊かな社会を作ることを目指し、アートで喜んでいただける活動をしています。

活動を始めた
きっかけを
教えてください。

岸本 46年前から学習塾をしながら、地域の方々と講演会や舞台招聘といったイベントをしていました。そのうちに、不登校やしょうがい者など何らかの生きづらさを感じた子たちが来るようになり、その中に重度のしょうがい者がいました。彼をどう支えていけばいいだろうと思っていた頃、NPO法ができるということことでNPO法人を立ち上げ、支援を行っていくことにしました。

妹尾 養護学校の講師時代に、障がいをもつ人の卒業後の進路状況を知りました。当時は、福祉事業所はごく少なくて、雇ってもらえるのは軽度の知的障がいの人からで、障がいが重たい人は就労の機会がとて少ない時代。生活が少しでも豊かになればという思いと、作品が売れたら彼らの仕事になるんじゃないか、と思って個人でアート教室を始めました。

2014年からは倉吉市のNPO法人さんの元で就労支援事業を行っていましたが、2019年に一般社団法人を設立し、独立しました。

活動を始められて
どうでしたか？

岸本 20年前は、しょうがい者に対する活動なんて地域の人たちには理解されませんでした。でも、大雪の時にはうちの利用者さんが雪かきをし、認知症のお年寄りが行方不明になったと聞けばみんなで探しに行く。そうやって助け合いながら地域の人たちと理解を深めてきました。

妹尾 私も、いつか「福祉」という概念がなくなり、当たり前のことになってほしいと願っています。これだけ便利な商品が生まれる社会でも、市場に障がいのニーズが入ってないと感じます。



からふるの活動が、一人でもいいから障がいをもつ人たちの人生を少し豊かにすることにつながればいいなと思って日々を過ごしています。

活動を続け、
変わってきた
ことは？

妹尾 利用者さんに、自分たちの作品が商品だという意識が定着してきました。楽しく健やかに描いてもらう目的もありつつ、本人たちも売れるとボーナスが入ってくるってわかってるので、「こういう絵柄が売れますか？」よく借りられるのはどんなものですか？」と聞いてくることも増えました。

また、有名企業が障がいの者の就労を応援してくださる流れもあり、社会的なニーズも高まってきています。以前は身近な人しか展示会にも来なかったのが、今はいろんな人が見にくら

れるようになったことが嬉しいのです。

岸本 しょうがい者たちが暮らしの中にあることはすごくいいことで、この集落の人たちは当たり前に助け合いをするようになりました。

それにしてもアートの力は本当にすごいです。うちの利用者さんもどんどん描く線が変わってきて、これってアートの力だなあと思いました。

妹尾 本当にそうですね。固定概念が違うので、描いている絵も天地もなければ、想像し得ない作品になります。

岸本 しょうがい者の存在が、今の世の中に光を当てるような気がします。人それぞれの見え方や生き方を自由に表現できたら、しょうがい者でなくても生きやすいことになるだろうと思います。

今後の展望は？

岸本 ずっと面白いからいろんなことをやってきました。「今、ここを生きる」ということが大事で、目の前で起こった問題に対して何ができるかを大切にしています。福祉有償運送を10年やっていて、こともあって、そ

れもあるしょうがい者が養護学校に通うのに困っていたのでなんとかしようと思つてのことでした。まず困りごとにすぐに対応し、それを事業化していくようにしています。特にこの山間部だと、地域のことも福祉のことも垣根なしでやらなといけません。さて、今度は目の前に何が起こるだろうと楽しみなんです。

あと、昔、鳥取県にしょうがい者本人が資格を取れる講座があったんですね。その時にうちの利用者さんは送迎のアシスタントや介護ヘルパーの3級とかを取って一緒にヘルパーに出て介助をしたりしていました。資格があるのとないのでは違います。今その講座がないので、ぜひ再開してもらいたいですね。

妹尾 障がいのあるアーティストを一人でも育成し、彼らに健やかに暮らし、彼らに健やかに暮らしてほしいと思つてやってきました。創作活動を通して外に出ていく機会も増えた

ことで、親子関係にも変化があります。庇護されるべき対象と思つて育ててきたけど社会の中で生きていくんだと気づくことも。もっとアートを通し、自分たちも社会の中で役割があるんだと知ってもらえるようになってほしい。そのためにいろんな取り組みを創出していきたいと思います。

※岸本さんのお話の箇所では、ご本人の希望により「しょうがい」と表記しています。

■NPO法人十人十色

所在地／鳥取県鳥取市用瀬町安蔵991
連絡先／電話：0858-87-3770 FAX：0858-87-2435
メール：reolwan@go5.enjoy.ne.jp
webサイト／http://juuninttoiro.jp/

【webサイト】



【facebook】



■一般社団法人アールスペースからふる

所在地／鳥取県鳥取市元町101
連絡先／電話&FAX：0857-35-0191
メール：art.colourful.105@ncn-t.net
webサイト／https://art-colorful.com/about-colorful/

【webサイト】



【facebook】



SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、
「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、
SDGsを推進しています。
今回はプラットフォームのメンバーのなかから、
2団体をご紹介します。

会員随時
募集中!



<https://sdgsnwt.jimdofree.com/>



とっとりSDGsプラットフォーム

TOTTORI SDGs PLATFORM



倉吉おや子劇場

■所在地／鳥取県倉吉市越中町1583-1
■連絡先／電話：090-2863-9017 (藤内)

公式
LINE



私たち倉吉おや子劇場は、親子でプロによる舞台芸術を鑑賞する活動を続けています。また、自主活動として「みんなで遊ぼう会」を企画し、会員以外の方も一緒に、親子で様々な体験を楽しんでいただいています。

さらに、一昨年からSDGsを盛り込んだ「みんなで遊ぼう会」を企画しています。「4.質の高い教育をみんなに」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」をベースに、これまで「ネイチャーゲーム&木育」「SDGs発見! まち歩き&木育ひろば」「海岸清掃」「コーディネーショントレーニング」「金銭教育」を開催してきました。講師の方に恵まれたこともあり、次々とイベントを開催することができました。どのイベントも親子で体験することにより、SDGsを自分事として捉えること、イベントだけではなく家庭に持ち帰り続けていくことを意識して行うことができたと思います。参加者からは「家庭でも実践できた」「また参加したい!」という嬉しい報告もいただいています。親子のコミュニケーションを増やし、自己肯定感を高めることにより、子どもたちが健やかに成長していくことを願っています。

今後は新たなSDGsイベントを開催するとともに、「海岸清掃」などは一度きりで終わるのではなく、継続した事業として活動の輪を広げていきたいと思っています。



境港玄孫プロジェクト

■所在地／鳥取県境港市巾野町 (2023年4月オープン予定)
■連絡先／電話：080-6529-8743
メール：sakaiminato.yashagoproject@gmail.com
H P / <https://www.yashago.net/>

公式
HP



私たち境港玄孫プロジェクトは、100年後に玄孫たちが住みたいと思える境港のために、今の私たちができること(「人が溢れる」「人が関わりの中で輝ける」)を市民の皆さんと一緒に作っていくことを目指しています。

今、この令和の時代に自分たちが幸せに暮らせるのは、5世代前の先達が、種を撒き、刈り取り、よく働き、子を育て、厳しい時代を乗り越え、切り拓いてくれたからこそです。であれば、自分たちも同じことをすべきだと考え、活動を始めました。

かつての境港は、水産業、物流拠点、観光業などにおいて日本海沿岸の地域の中でも有数の元気ある街でした。しかしながら、そんな境港の人口も1985年をピークに減り続け、耕作放棄地、空き家、廃校になって利活用されない小学校などが増加し、地域の状況は厳しさを増しています。街が活力を取り戻し、持続可能であり続けるための活動、それが「境港玄孫プロジェクト」です。具体的には市内にある高校2校、中学校3校、小学校6校の子どもたちのための地域活性化活動を目的としたクラブの設立を目指しています。そのために、地域の空き家を活用して、子どもたちが地域社会を学べる秘密基地「YashagoBase(やしやごベース)」を提供します。

子どもたちが「立場や年齢の違う人たちとともに、幅広い知識を身に付け、地域社会の全体像を考え、これまでの知識や方法では解決できない課題に対する最善解を導く力」を養う、その実現のため今後も活動していきます。



2023.4月 OPEN
YashagoBase



子ども達が社会を学べる
秘密基地

境港玄孫プロジェクト

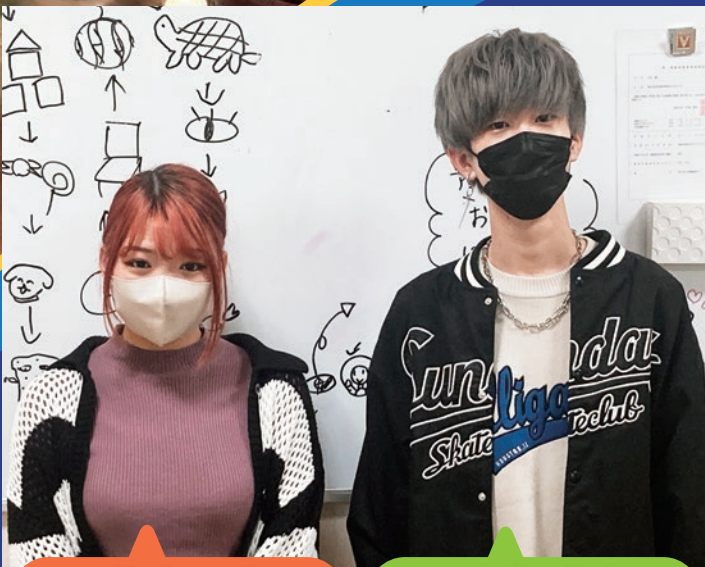
<https://www.yashago.net/>

現在進行形の
高校生の動きを
紹介する

高校生ing

★ クラーク記念国際高等学校
鳥取キャンパス

クラーク鳥取 キャンドル ナイト



3年 えだの あい
枝野 愛さん

3年 こだに りくと
小谷 陸人さん

ご自身や周りの意識の変化 などありましたか？



小谷
さん

入学当初は話すのが苦手でしたし、グループのリーダーなどもしたことがありませんでした。ただこのイベントを機に総務部のリーダーとして、打合せの際、先生が不在の時は自分が場をまとめるなど、そのあたりの意識はこの3年間で変わってきたと思います。



枝野
さん

私も人前で話すのが苦手でしたが、広報部のリーダーとしてラジオ出演や取材対応などを通して、徐々に苦手意識も克服できたかなと思います。



キャンドルナイト2023について 教えてください。



枝野
さん

キャンドルイルミネーションを楽しんでもらうイベントです。私たちの代はコロナ禍で入学式をはじめ、様々な学校の行事



が行えませんでした。世の中全体が暗い雰囲気でしたが、密にならずに何か明るい話題が提供出来ないかと考え、3年前から始めた企画です。

1年目は地域の方など約300人の方がイベントに来てくれました。2年目はコロナの感染拡大もあってインスタを使ってイルミネーションの様子を発信する無観客の形での開催となってしまいました。3回目の今回は再び有観客で開催でき、約400人の方に来てもらうことができました。

今後の取組みについて 教えてください。



小谷
さん

3年生は卒業になりますが、1・2年生には楽しみながらこの取組みを続けていってほしいです。



枝野
さん

人によっては髪の色などをみて、私たちの学校に偏見をもっている方もいるのではと感じています。ただ私はこの学校がとても好きで、そういった方にもこの学校の良さなどを知ってほしいと思っています。この学校の良さを伝える取組みの1つとして、キャンドルナイトが今後も続いていってほしいと思っています。

実施する中で大変だったこと などはありますか？



枝野
さん

1年目は1年生だけで企画と準備を行い、準備期間も2か月足らずだったので大変でした。また、イベントの広報でチラシをお店などに貼ってもらうための交渉など大変なこともありました。



小谷
さん

2年目からは全学年通しての部署制として企画と実施をすることになったのですが、後輩の自分が先輩に対してどう指示を出したらいいのかわからなかったです。





編集後記

新型コロナウイルス感染症の5類移行が決まった。コロナの感染拡大により「寄るな、出るな、騒ぐな」と、人と人が集うことが制限され、地域での活動も中止、延期されてきた。この3年間で、活動団体の中に蓄積されたアイデアやエネルギーが、春と共に躍動することを期待している。
(小林 綾子)

てとり「てとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉

編集人：小林 綾子

取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、寺坂 純子、椿 善裕、池淵 菜美、谷 祐基、世瀬 あけみ、上山 梓

写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）

写真提供：倉古おや子劇場、境港玄孫プロジェクト、クラーク記念国際高等学校鳥取キャンパス

協力：倉古おや子劇場、境港玄孫プロジェクト

デザイン：山本印刷株式会社



読者アンケートにご協力ください。



「てとり」バックナンバーはこちらから。

2023年3月2日発行(第18号)

お問合せ／公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <http://tottori-katsu.net/>
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net